

経営比較分析表（令和6年度決算）

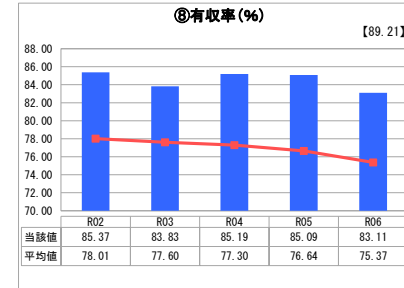
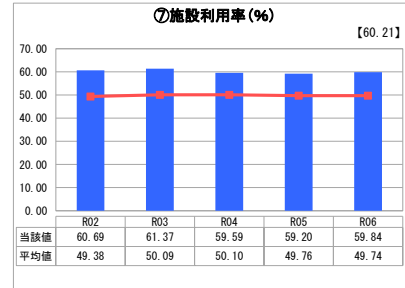
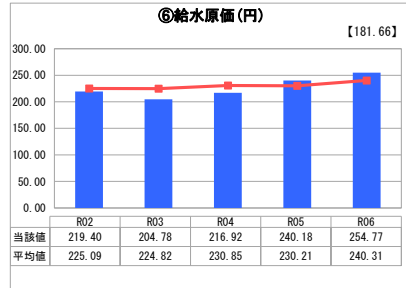
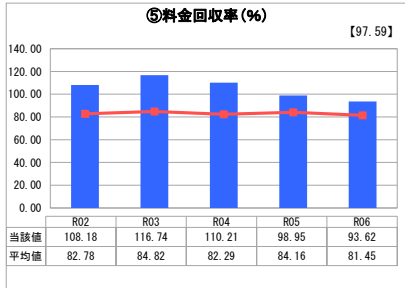
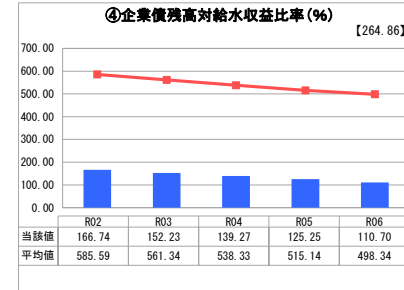
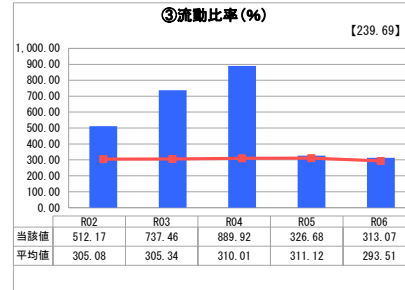
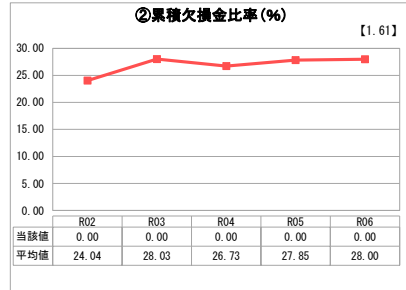
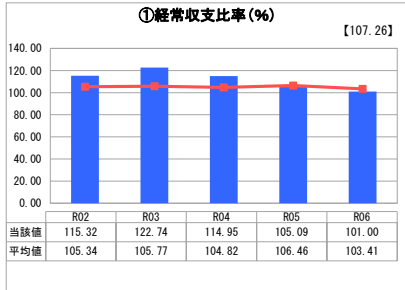
北海道 鹿沼町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	88.37	98.04	4,840	

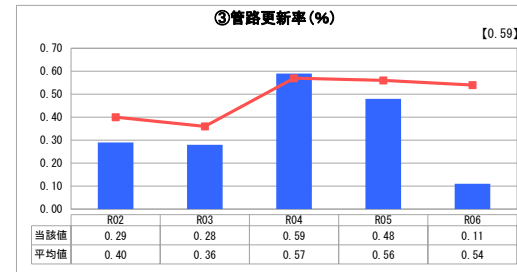
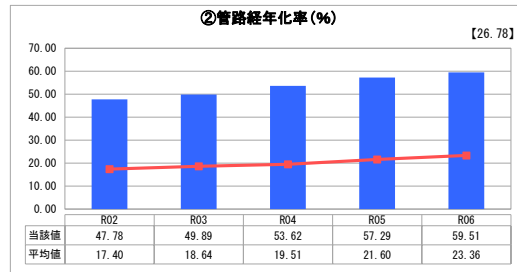
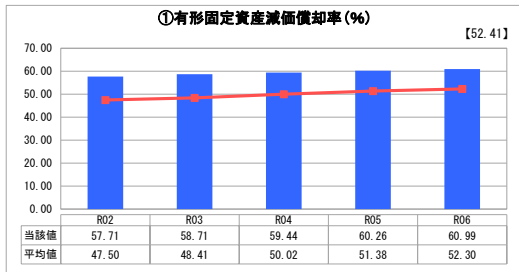
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,463	139.42	46.36
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
6,301	46.17	136.47

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析概

1. 経営の健全性・効率性について

○経常収支比率は100%を上回っており、料金回収率は100%を下回っているものの100%に近いことから、現時点での経営状況は比較的健全な水準にあるものと考えられる。しかし、経常収支比率、料金回収率ともに下降していることから、今後は料金改定等の経営改善を行う必要があると考える。

○累積欠損金は、0%となっていることから、健全な経営状況にあるものと考えられる。

○流動比率は100%を上回っており、短期債務に対する支払能力は十分であるとされる。

○企業債残高対給水収益比率は類似団体平均を下回っており、企業債残高が年々減少しているが、令和7年度に企業債の借入を予定しているため、今後は上昇傾向となると考えられる。

○給水原価は、平成26年度から長期前受金戻入を反映しているが、各年度の事業量などの影響を受けやすく、また、昨今の物価高騰の影響もあり、今後は上昇傾向になると考えられる。

○施設利用率は類似団体平均値よりも高い水準にあり、適正な規模と考えられる。

○有収率は類似団体平均を上回っており、高い水準となっているが、今後は有収率維持のために老朽管更新を進める必要があると考えられる。

2. 老朽化の状況について

○有形固定資産減価償却率（有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却割合）、管路経年化率（法定耐用年数を超えた管路延長の割合）共に全国平均や類似団体平均を上回っていることから、他の事業体と比べて施設の老朽化が進んでいる状況にあると考えられる。

○管路更新率（当該年度に更新する管路延長）は、平成24年度まで道路改良に合わせた更新が続いており1%を超える更新率だったが、平成25年度からはこの更新が無くなった事から1%に満たない状況が続いており、管路の更新が進んでいない状況であるとされる。

全体総括

現時点での経営の健全性・効率性については概ね確保されていると考えられるが、経常収支比率、流動比率、料金回収率は減少傾向に、給水原価は物価高騰等の影響もあり上昇傾向にある。令和7年度に経営戦略の改定を行っており、今後は経営戦略を基に経営の改善を図っていく。

また、管路経年化率が年々増加している状況から、今後は施設の計画的な更新に取組むべきアセットマネジメント計画を作成し、中長期的な視点で資金の借入も検討しながら事業を進めていくことが必要と考える。